

平成 19 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 堀 信行

最終学歴	広島大学教育学部高等学校教員養成課程社会科地理学専攻卒業
取得学位	理学博士
所属学会	日本地理学会、人文地理学会、地理科学学会、東北地理学会、日本サンゴ礁学会、日本アフリカ学会、日本ナイル・エチオピア学会、日本第四紀学会、日本地質学会、日本国際地図学会、広島史学研究会、海洋調査技術学会、日本造園学会
現在の専門分野	環境地理学
研究課題	サンゴ礁地域や熱帯アフリカをはじめとする諸地域の環境地理学、および景観分析を通じて人間と自然の関係に関する地理学的な研究
【研究上の特記事項】 過去の科研費で行ってきたアフリカ研究と景観分析の研究について研究終了時に提出済みの研究成果報告書の内容の更なる展開をすべく、出版計画を検討している。またサンゴ研究についてもこれまでの研究成果を取りまとめる出版計画を進めている。この他、富士山をはじめとする霊山の景観分析や環境地理学的な側面からみた文化財の位置づけの研究を行った。	
【教育上の特記事項】 日本地理学会の地理教育公開講座委員会主催、および熊本県・市両教育委員会後援の第13回公開講座（熊本大学/10月7日）で「アフリカ・サバンナ地帯における自然と人間の交流」の講演を行なった。また、東京都立大学附属高校において修学旅行の事前授業として「沖縄の自然と民俗文化」について講演を行なった。この他東京都目黒区の生涯教育機構「めぐるシティ・カレッジ」で、開校式の講演「見立ての富士：日本人は山に何をみてきたか」（4月7日）および講座「世界の島々」の中の「セイシェル」「ハワイ」「ザンジバル」の各授業、また講座	
【社会的活動】 日本地理学会代議員、日本地理学会名誉会員推薦委員会委員、地理科学学会評議員、日本サンゴ礁学会評議員、日本ナイル・エチオピア学会評議員、広島史学研究会評議員、沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員、東京都水産海洋研究推進プロジェクトチーム総括委員および小笠原海域ワーキンググループ委員長、文化庁文化審議会専門委員（文化財分科会）、文化庁文化審議会、世界文化遺産特別委員会委員、東京都目黒区生涯学習機構「めぐるシティカレッジ振興会」会長および学長、NPO法人「もりの会」理事、「ネパール会」会長、季刊誌「エコソフィ	
【学内活動】（学内職歴を含む） 博物館委員会、国際交流委員会、全国高校生歴史フォーラム審査委員	

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 見立ての富士：日本人は山の形に何を見てきたか	単	2007年6月	富士学研究、5巻、1号	富士山を三峰に描く背景と富士の正面について参詣曼荼羅図や万葉集の歌の景観分析から考察を行ない、火山としての富士山と火の信仰の結びつきに言及した。Pp.14-15.
(学会発表) アフリカ・サバンナ地帯における自然と人間の交流：スーダンとニジェールの農耕民を中心に 日本の天然記念物にみられる地球のダイナミズム	単 単	2007年10月 2007年4月	日本地理学会・第13回地理教育公開講座(熊本大学) 月刊文化財 523号	スーダンのヌバにおける三日間におよぶ収穫祭の詳細およびAcacia albidaというマメ科の樹をめぐる農耕の詳細を通して自然と人間の交流を論じた。 日本の天然記念物のうち地質・鉱物に関する分野を地球のダイナミズムの立場から内的・外的営力と場の関係から位置づける視座の重要性と天然記念物として認識する人間と自然の関係について論じた。Pp.22-27.